

令和4年度 学びの丘 上新田学園 学校評価書

4段階評価	4 とても良い 3 良い 2 少し悪い 1 悪い
-------	-----------------------------------

No.	重点目標	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学 校	委員会	学校関係者評価委員の意見	
1	保護者・地域との連携	1	学校は、保護者や地域の声や願いに応える教育を行っている。	○ コロナ禍でありながらも、ふるさと学習、茶摘み体験、農業体験等、保護者や地域の方々のご協力をいただきながら、可能な限り取り組むことができた。	3.27(小) 3.19(中)	3.29	3.4	3.7	○ コミュニティ・スクールの導入に当たり、学校・家庭・地域が丸となってより良い子ども達の育成につなげていけるといいと思う。 ○ 今後は、区長、民生委員と連携を図る場を設けて欲しい。 ○ 通学路における危険箇所改善について、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいてとても良いと思う。 ○ 学校側は、ホームページや学校だより等で、子ども達の楽しい表情や授業の様子がうかがえて、素晴らしい情報発信だと思う。 ○ 学校から家庭へ、何か問題があったときだけ連絡するのではなく、良い行動をしたときも電話連絡等するとよい。
		2	学校は、各種の便りやホームページ、保護者会等の中で、学校の考え方や取組の様子について伝えている。	○ ホームページや学校だより「座論梅」で、学校での教育活動の様子を積極的に伝えることができた。ホームページの閲覧は、現在130万以上のアクセスをいただいている。	3.59(小) 3.49(中)	3.72			
		3	学校は参観日や行事等を通して、保護者や地域住民と交流のできる機会を適切に設けている。	○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限の配慮をしながら、可能な限り各種行事を実施できた。	3.39(小) 3.32(中)	3.36			
		4	学校は、PTA会費や教材費など、家庭から集めたお金について適切に処理し、保護者にも説明している。	○ PTA会費は地区での集金とし、教材費は口座引き落としとしているが、ほぼ滞りなく納入していただいている。	3.45(小) 3.51(中)	3.41			
		5	教職員(担任等)は、各種の便りや懇談会等を通して、子どもの生活状況や学級の様子を伝えている。	○ 学級通信は、全学級で発行し、子ども達の様子を発信することができた。	3.51(小) 3.60(中)	3.65			
		6	教職員(担任等)は、児童生徒のよいところや気になることについて、電話や家庭訪問などで家庭との連絡を取り合っている。	○ 学級担任をはじめ、全職員で細部にわたって家庭と連絡を取るよう心掛けた。年度当初や夏季休業中に個人面談を実施し、保護者との連携を深めることができた。今後ともよりよい連携の在り方を模索していく。	3.11(小) 3.30(中)	3.32			
2	きめ細かな指導	7	学校は、楽しく分かりやすい授業を実施している。	○ 年2回の相互参観授業の実施やICTを効果的に活用した授業改善に取り組んでいる。	3.33(小) 3.15(中)	3.35	3.2	3.7	○ 先生方が、子ども達のために細部に渡り熱心に取り組まれており敬服する。その成果も学業面だけでなく、心身の成長という面でも出ていると感じる。 ○ 家庭学習の充実をいかに工夫して、改善していくかが求められる。 ○ 町の図書館利用の推進や長期休業中の図書室開放を促してはどうか。
		8	一人一人の学力を伸ばすためのきめ細かな指導を適切に行っている。	○ 3学期は特に、個に応じた「学びの確認」に力を入れ、取り組んでいる。	3.08(小) 3.23(中)	3.21			
		9	教職員は、子どもの個性をよく把握して、適切な評価や声かけをしている。	○ SWPBSの視点を活かした学級経営を心掛け、称賛の場を多くもつとともに、タイミングよく声掛けができるよう取り組んでいる。	3.21(小) 3.26(中)	3.20			
		10	家庭と連携しながら、家庭学習の進め方について、適切に助言している。	○ 家庭学習の方法については、4月の個人面談、学級懇談時に説明を行い、保護者への協力をお願いし、必要に応じて個別に対応してきている。	3.09(小) 3.00(中)	3.19			
		11	読書活動の一環、及び課題解決の手段として、本に親しませている。	○ 図書支援員を中心に、読書環境の整備を行い、本に親しませる取組を積極的に行っている。	3.35(小) 2.98(中)	3.09			

No.	重点目標	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学 校	委員会	学校関係者評価委員の意見
3	児童生徒に 自信	12 教職員は、一人一人を大切にされた学級経営・いじめのない集団づくりを行っている。	○ 講話や指導の場面では、常に「校訓」と「上学宣言」を意識させるようにしている。 ○ 年2回の人権集会を開き、児童生徒一人一人の人権意識の高揚を図っている。また、お昼の校内放送を利用し、継続して人権意識を高める取組を行っている	3.24 (小) 3.15 (中)	3.29	3.3	3.7	
		13 児童生徒同士が互いに認め合うコミュニケーションづくりに取り組んでいる。	○ 生徒指導の三機能を意識した取組を意図的にを行い、児童生徒の自己有用感を高めてきている。また、作品等を積極的に新聞・ラジオに投稿したことで、意欲的に表現活動に取り組むようになってきている。	3.28 (小) 3.21 (中)	3.21			
		14 子どもに自信をつけさせるために、授業や行事等で児童生徒が発表したり活躍したりする場を与えている。		3.43 (小) 3.32 (中)	3.38			
4	小・中学部間の 連携	15 小・中学部間の連携を図る授業や取組を適切に行っている。	○ 小学部3年生から、中学部職員による一部教科担任制をとり、専門的な授業を行うことができている。	3.36 (小) 3.19 (中)	3.39	3.3	3.8	○ 昨今の不審者への対応等について、学校からの素早い情報発信により、地域でもパトロールを行うことができた。今後も安心、安全な学校づくりに協力していきたい。
		16 立腰や語先後礼のあいさつの仕方等、礼儀や姿勢を意識した学習環境づくりを適切に行っている。	○ 4月に「礼法指導」を行うとともに、学習図書委員会を中心にした取組により、整然とした環境で授業を開始することができている。	3.49 (小) 3.32 (中)	3.46			
		17 思いやりの心やルールを守る態度、協調性など、心を育てる授業や教育活動を適切に行っている。	○ 道徳の時間の充実を図るとともに、「校訓」と「上学宣言」を常に意識した指導を行っている。	3.33 (小) 3.26 (中)	3.32			
		18 安全、健康に関する授業や教育活動を適切に行っている。	○ 日々の感染症対策はもとより、学期1回の避難訓練や毎月の安全点検、また熱中症等、学校全体で危険予測能力と危機回避能力の育成に取り組んでいる。	3.40 (小) 3.19 (中)	3.29			
		19 いのちを大切にする教育や人権教育、情報教育など、今日的な課題についての教育を適切に行っている。	○ 性教育、がん教育の授業や「か母ちゃっ子くらぶ」「動物愛護協会による出前授業」等、命を大切にする教育の充実を図っている。また、専門家を招聘しての情報モラル教育講演会を実施した。	3.36 (小) 3.34 (中)	3.43			
		※ 効率よく業務が遂行できるように教職員相互で連携し、勤務時間を意識した取組ができている。	○ 職員同士よく声を掛け合い、助け合いながら業務を行う姿が多く見られる。今後とも、個々の職員の業務の効率化を促す必要がある。		教職員のみ 3.13			
5	上新田 スタンダード	20 自他を高める学習5原則（1分前着席、大きな声で始めと終わりの挨拶、忘れ物ゼロ、授業に集中、きちんと家庭学習）について取組を行っている。	○ 学校だよりや学級通信、ホームページ等で学校の現状を伝えるとともに、授業への集中力を高める取組として、機会あることに家庭におけるゲーム時間の設定やルールづくり等の協力をお願いしてきている。	3.39 (小) 3.26 (中)	3.25	3.3	3.8	○ 町の会合でも「上新田のあいさつは素晴らしい」と言われることが多く、誇らしく思っている。
		21 自他を大切にする生活3原則（温かい学校、美しい学校、元気よい学校）について取組を行っている。	○ 毎月の生活目標「凡事徹底」を掲げ、全校で取り組んでいる。校内放送や全校下校時において、称賛の場を多く設定したことで、進んであいさつのできる子どもたちが増えた。また、縦割り班で協力し合いながら、無言掃除がしっかりできている。	3.43 (小) 3.30 (中)	3.12			
		22 ふるさとを大切に思い、子どもたちの夢を育む教育に取り組んでいる。（キャリア教育）	○ 保護者や地域の方々との協力を得ながら、学校行事、総合的な学習の時間、学級活動、道徳の時間をはじめとして、教育活動全体をとらえて、キャリア教育の充実を図り、夢を抱き、夢を語る児童生徒の育成に努めている。	3.35 (小) 3.17 (中)	3.33			

次年度の方向性についての校長所見

- ICTを効果的に活用した授業改善を推進し、児童生徒の学力向上を図る。
- SWPBSの視点を活かした集団づくりやユニバーサルデザイン等の視点による授業づくり等の特別支援教育の充実を図っていく。
- コミュニティ・スクールの機能向上を図り、学校・家庭・地域の良好な関係づくりを築くとともに、積極的な情報発信と共通理解を図りながら「地域とともにある学校づくり」を目指す。
- 教師が健康で子ども達に向き合い、持続的に「より良い教育」を行っていくための働き方改革を推進する。
- 上新田スタンダードの取組を学校だけでなく、家庭、地域へと浸透させていく取組を推進する。
- 子ども達が安心して学校に通えるように、職員全員が常に危機意識をもつとともに、家庭・地域とも連携を図り、安心・安全な学校づくりを推進する。